

第二十回チャペルコンサートご案内

チャペルにパイプオルガンが設置され、毎年春と秋の二回、オルガン演奏を中心としたチャペルコンサートを一般公開で開催してまいりました。早いもので今回で二十回目となりま

す。今回は、ドイツよりハイアエ・シェック氏を迎えて、来る十月十四日(水)午後二時より、本学チャペルにおいてオルガン演奏会を開催します。シェック氏は若くして音楽の才能を認められ、十三才でトロジנגガ音楽学校の英才クラスに入學、さらにシュトゥットガルト音楽大学、フライブルグ音楽大学で学び、演奏家資格を取得されました。

以後ドイツのみならず、ヨーロッパ、アメリカ、日本で演奏活動を行い、名声を博している方です。現在はカールスルーエ音楽大学の講師、ベルギー教会のオルガニストです。

ひろく一般の方々に無料公開しておりますのでぜひご参加下さい。お問い合わせは、キリスト教センターへどうぞ。



公開シンポジウム開催される

「ポスト冷戦時代の日韓経済協力」

名古屋学院大学産業科学研究所・アジア経済研究会主催、韓国より二名の研究者を招き、九月十七日(木)名古屋商工会議所ホールで参加者二五〇名で開催。西村昂夫学長が可会兼コメンテーターとして進行し、講演者は、以下のとおりでした。福田茂夫教授の「冷戦後のアメリカのアジア政策」、安豊模研究委員(韓国産業研究院)の「日韓が直面した経済問題」、季鍾允教授(韓国外国语大学)の「日韓の水平的分業」、片野彦二教授が「今後の日韓経済発展の方向」。通訳は本学の姜喜永講師が担当した。

今回のシンポジウムでは、今後の日韓経済協力の在り方に関わる問題点を中心に討論が行われた。八十年代の終わり頃まで、韓国経済は驚異的な経済成長を達成していた。これは韓国の自助努力によるが、資本・技術においては主として日本に依存し、製品の市場においては主として米国に依存することにより、輸出志向型の工業化を推進し、その結果この経済成長は実現された。八十年代中頃以降の韓国通貨の対米ドル価値の上昇、九十年代になってからの賃金水準の急上昇は、韓国製品の国際競争力を削減し、輸出は伸び悩み、貿易収支は逆転し、韓国の経済成長には障りが出てきている。このような状況からの脱却が現在の韓国経済における最大の問題点である。日韓経済協力関係におけるこのような問題点を軸として討論が展開された。



一九九二年度父母懇談会開催される

今年度の父母懇談会が、五月九日から九月十五日にわたり、十二会場で開催されました。

まず五月份は四年次生を対象に就職説明会が岡山、浜松、名古屋、金沢の四会場で開催され、今年の就職動向について父母の関心の深さが例年以上に目立っていました。

八・九月份は一・三年次生を対象として、浜松、岡山、福岡、金沢および名古屋の五会場で延べ八日間にあたって開催されました。

内容は西村学長をはじめとする各先生方の身近かな小講演にはじまり、それぞれ個別に懇談を行い、父母と大学の相互理解を一層深めることができました。

出席人数は就職説明会が二八二名、懇談会が八六四名と合わせて千名以上の父母の方々にご出席をいただき盛況裡に終了しました。

開催日	開催地	出席者数(人)
5・9	岡山	15
5・10	浜松	45
5・17	名古屋	198
5・31	金沢	15
8・22	浜松	86
8・23	福岡	43
8・29	岡山	28
8・30	金沢	76
9・5	名古屋	116
9・6	名古屋	189
9・13	名古屋	162
9・15	名古屋	164
台	計	1,137



名古屋学院大学 秋季公開講座

テーマ 「エネルギー資源・環境問題」

期間 10/6・11/3(全5回)

毎週火曜午後6時30分/8時30分

会場 名古屋学院大学 第3会議室

講師 井野彦二教授

10/6日 人口・エネルギー食糧

11/3日 これからの経済とエネルギー

環境問題

20日 海外域・放射線と環境

27日 資源・エネルギー問題の日本型構造と地球資源

11/3日 「共生化する世界と共生の環境」

講師 井野彦二教授、木村伸也教授、深見 勲教授、十名直吉助教授

問合せ先 産業科学研究所(222) 4111